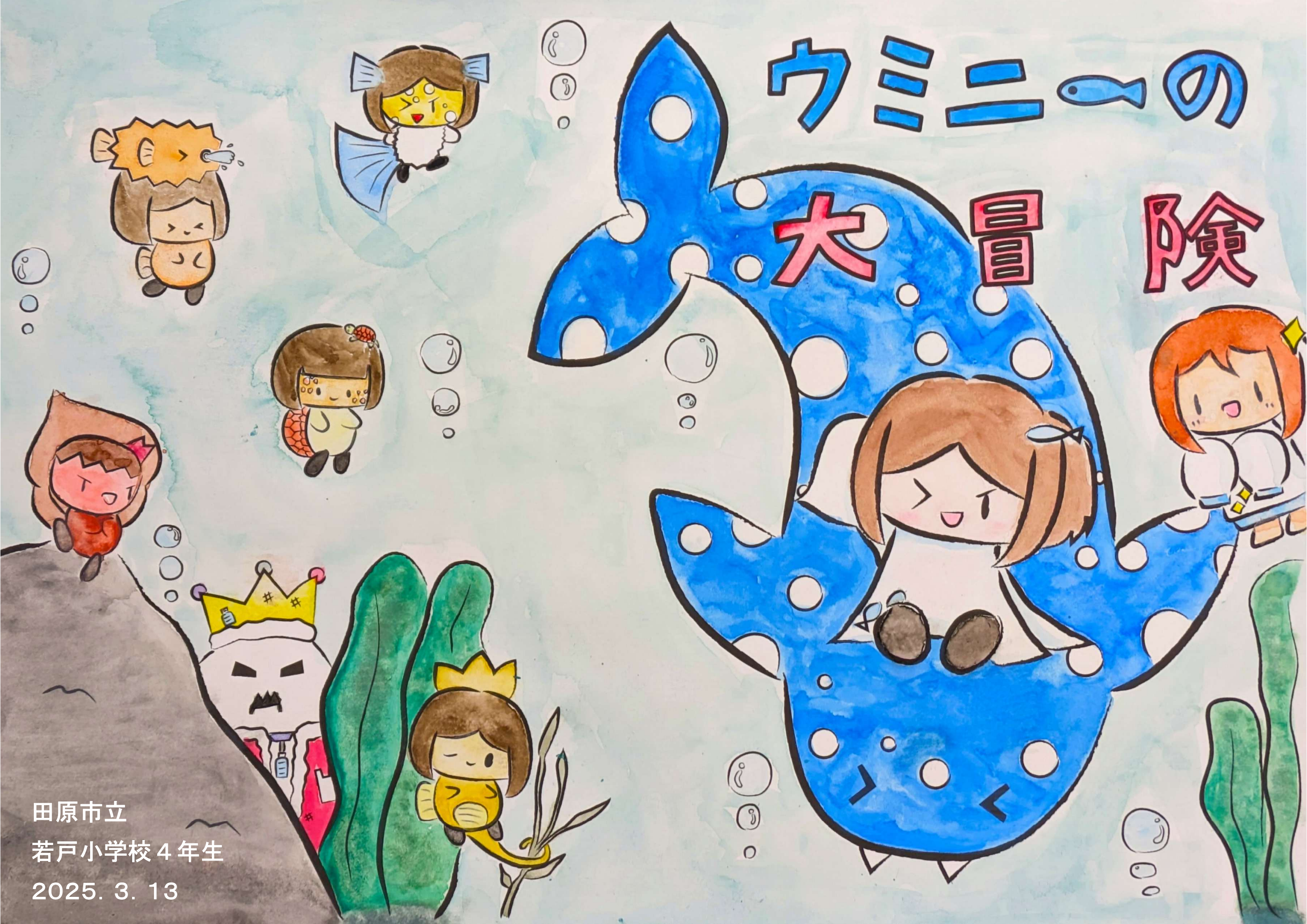


ウニニの

大冒険



あるがっこうのすいそうに
海のようにうまれました。
なまえは、「ウミニー」

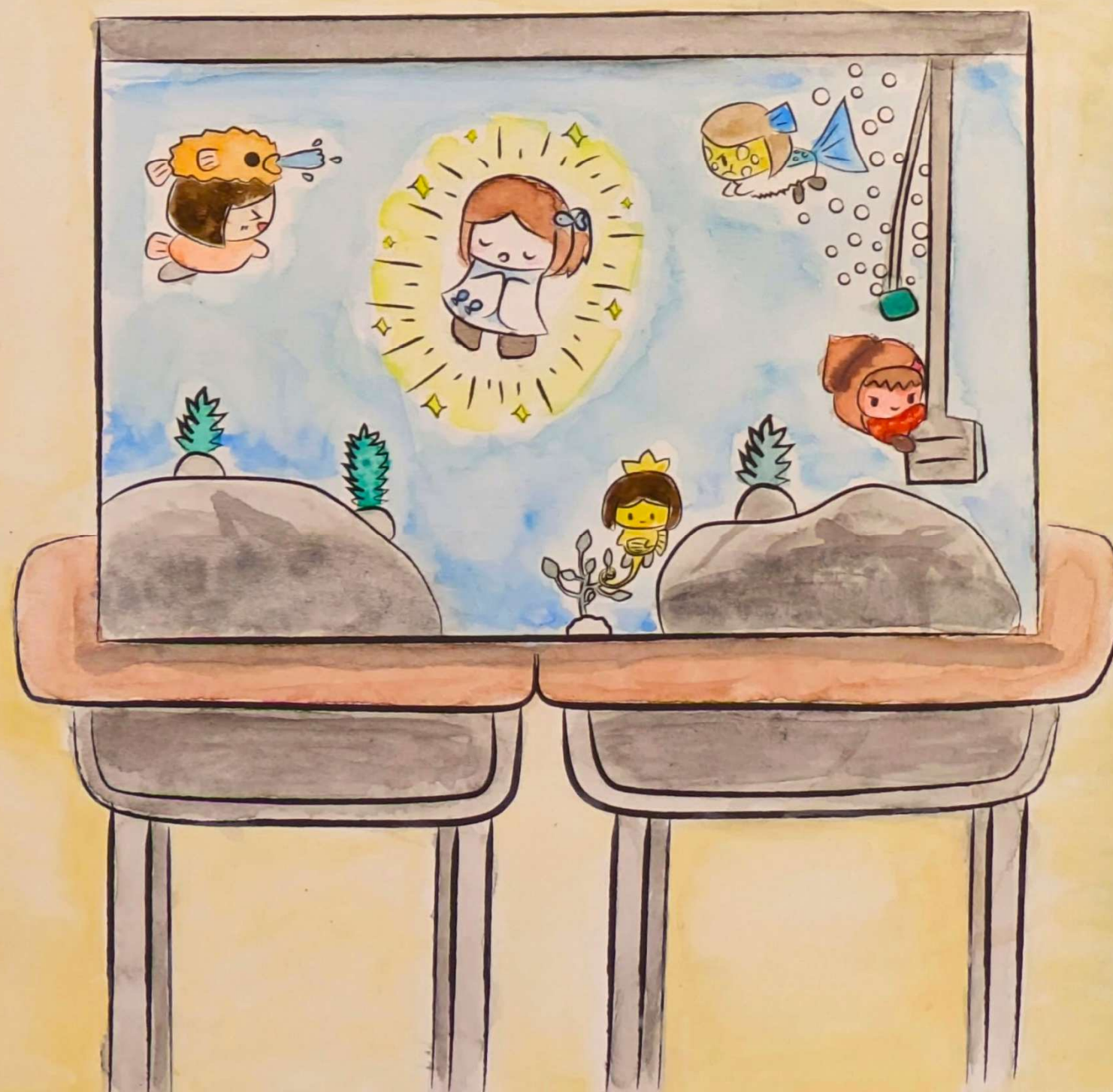
コブヨコバサミ

フグ

すいそうのなかには、
たくさんの海のいきものたちがくらしています。

ハリセンボン

サンゴタツ



ウミニーがすいそうのなかをおよいでいると、
おおきなヤドカリがパイプをのぼっていました。

「なにしてるの？」
「おれさま、海にもどりたいたんだ。
海はひろくてキラキラしていて
きれいなところなんだ。」

そのはなしをきいて、
ウミニーは「海」にいつてみたくなりました。

「どうやったら海にいけるんだろう。」
ウミニーがかんがえていると、

「そんなに海にいきてえのか。
だったらおれにまかせときな！」

おおきなヒレをもったフグが
いきおいよくみずをとばしました。
「うわー！！」

すいそうのそとにとばされたウミニーは、
すなはまにたどりつきました。





「ここが海？すごくひろい！！」
ウミニーははじめてみる海におおはしゃぎ。

でも、あしもとをみると、
きたないものがたくさんおちています。
ウミニーは1つひろってみました。
「なんだろう。」

「それは、ゴミってやつだ。」
とおりがかったウミガメがおしえてくれました。

「ゴミは、オラたちいきもののてきなんだ。
まちがえてたべてしまっ、しんでしまったやつもある。
ゴミがあると海はきたなくなって、
あんしんしてせいかつできないからこまっているんだ。」

「それはたいへんだ。ぼくがゴミをなくしてくるよ。」

ウミニーは、こまっているいきものたちをたすけるため、
ゴミをなくすたびにしゅっぱつしました。

ウミニーがゴミをさがしながらおよいでいると、
まえのほうからジンベイザメがやってきました。

ジンベイザメのおなかには、
たくさんのコバンザメがくっついていきます。
そのなかに、ようすのちがうものがありました。

「ジンベイザメくん、なにかついているよ。」

「え！？とってとってー！！」



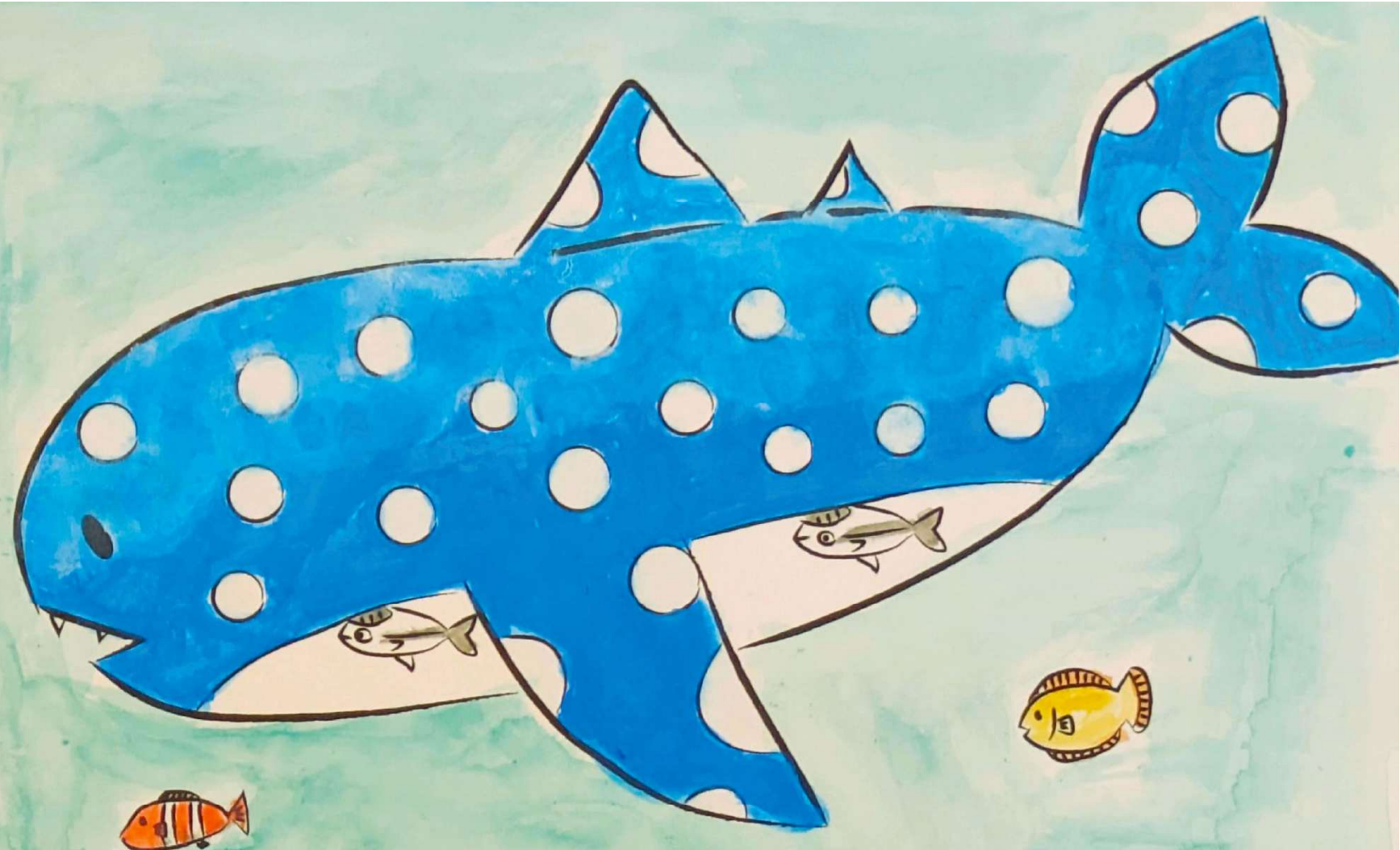
はたしじょう♡

キラニーは のった

たすけてほしければ

ゴミかいがんにかい!

ゴミ・ゴーニより

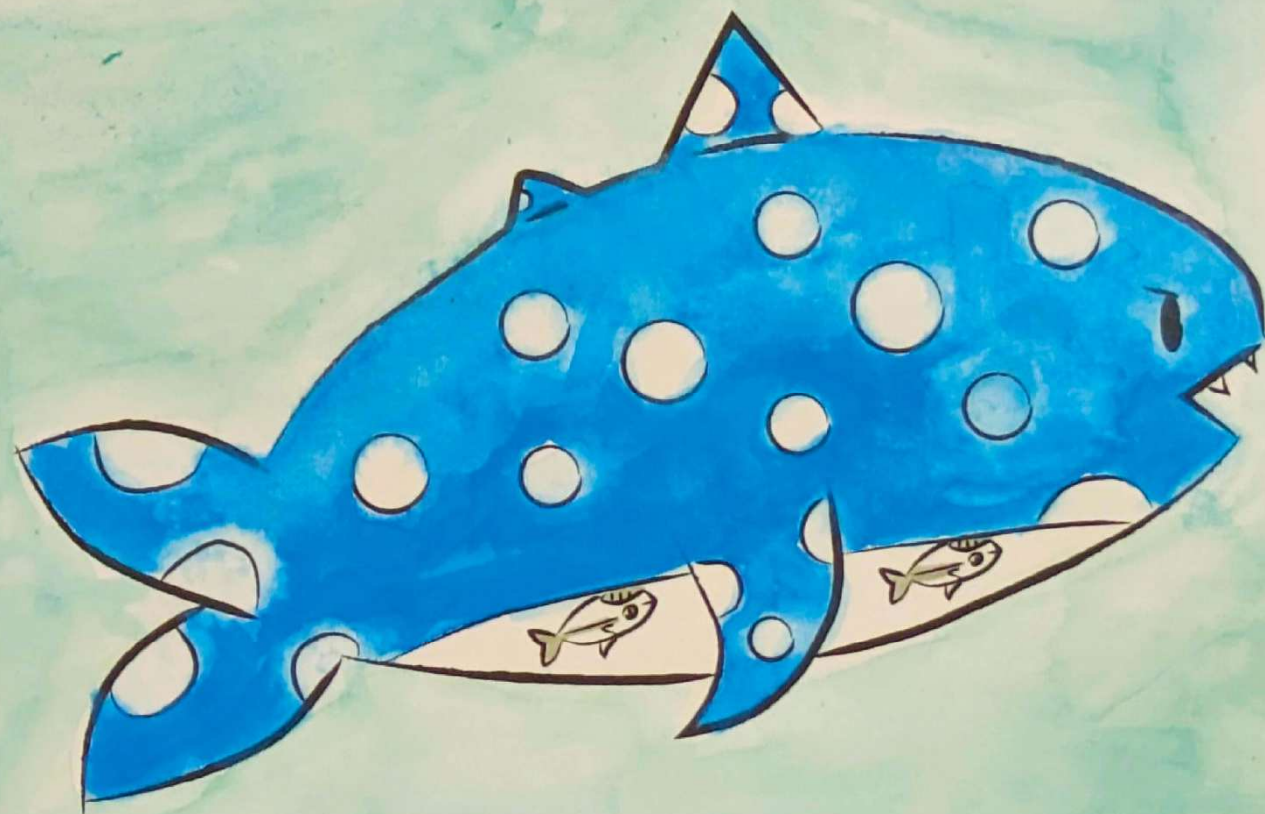


「海がきたないとおもっていたら、キラニーがさらわれていたのか。」
ジンベイザメがいました。

「キラニーってだれ？」

「キラニーは海をきれいにしてくれるようせいだよ。
いないと、海がきたなくなっちゃうんだ。」

「キラニーをたすけて、海をきれいにしなくちゃ!」
ウミニーとジンベイザメはいっしょにおよぎだしました。





「ウミニー、
ふたりのちからをあわせるために
おいらとがったいしよう！」

ジンベイザメはそうって、
ウミニーのあたまにかぶりつきました。

ウミニーたちがおよいでいると、ゴミのやまがあらわれました。

そのなかから、ゴミのようせいゴミニーがとびだし、
おそいかかってきました。
「うわー！」

ウミニーたちはゴミニーとたたかいますが、まったくかないません。

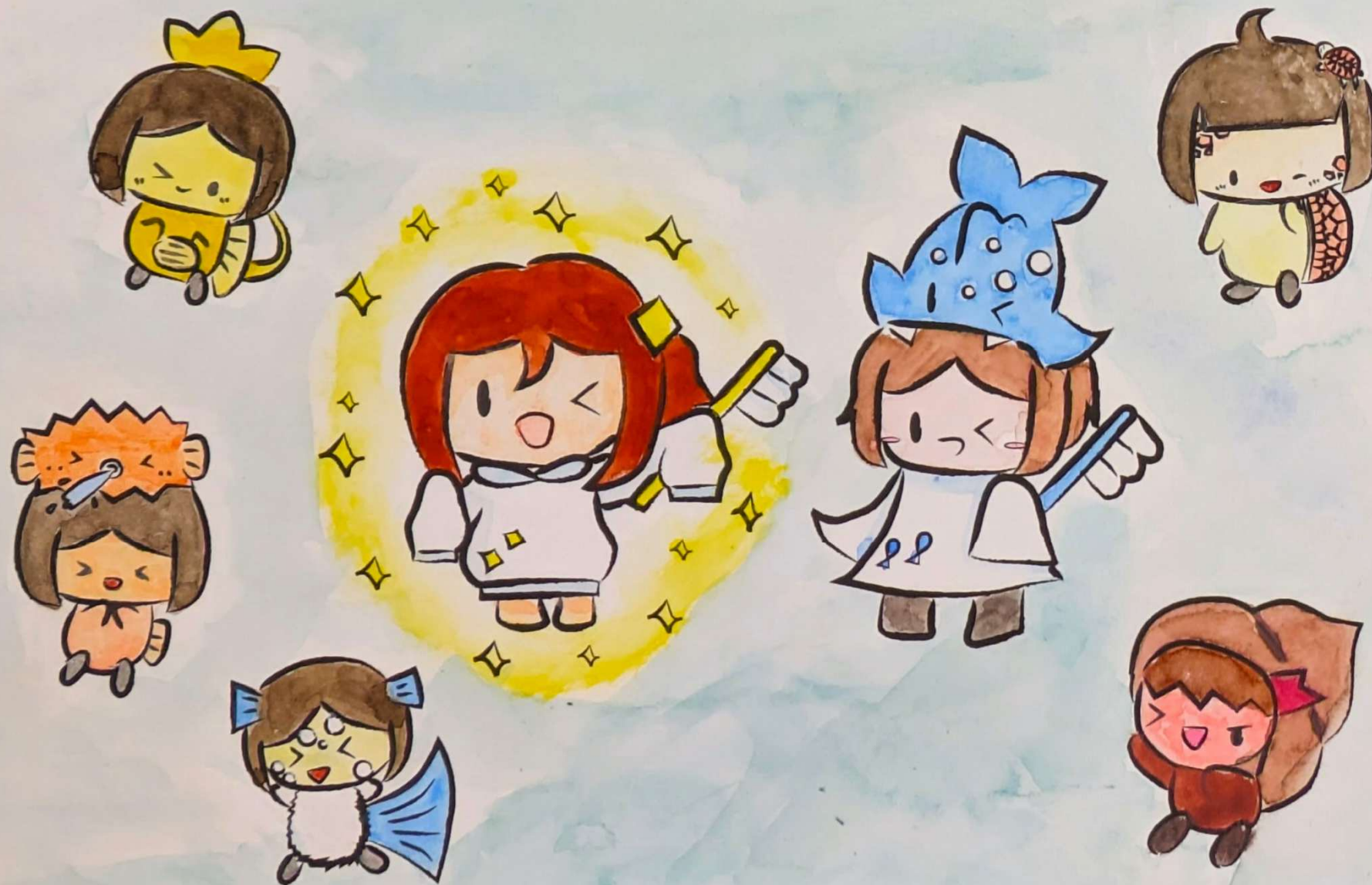




ウミニーはふたたびゴミニーをたおしにいきます。
しかし、ゴミニーにはゴミのちからがあるので
まったくききません。

「ゴミをひろって海をきれいにすれば
ゴミニーをたおせるはずだ！」

ウミニーはゴミひろいをしますが、ゴミがへりません。
「だれかー！！ぼくにちからをかしてくれー！！」

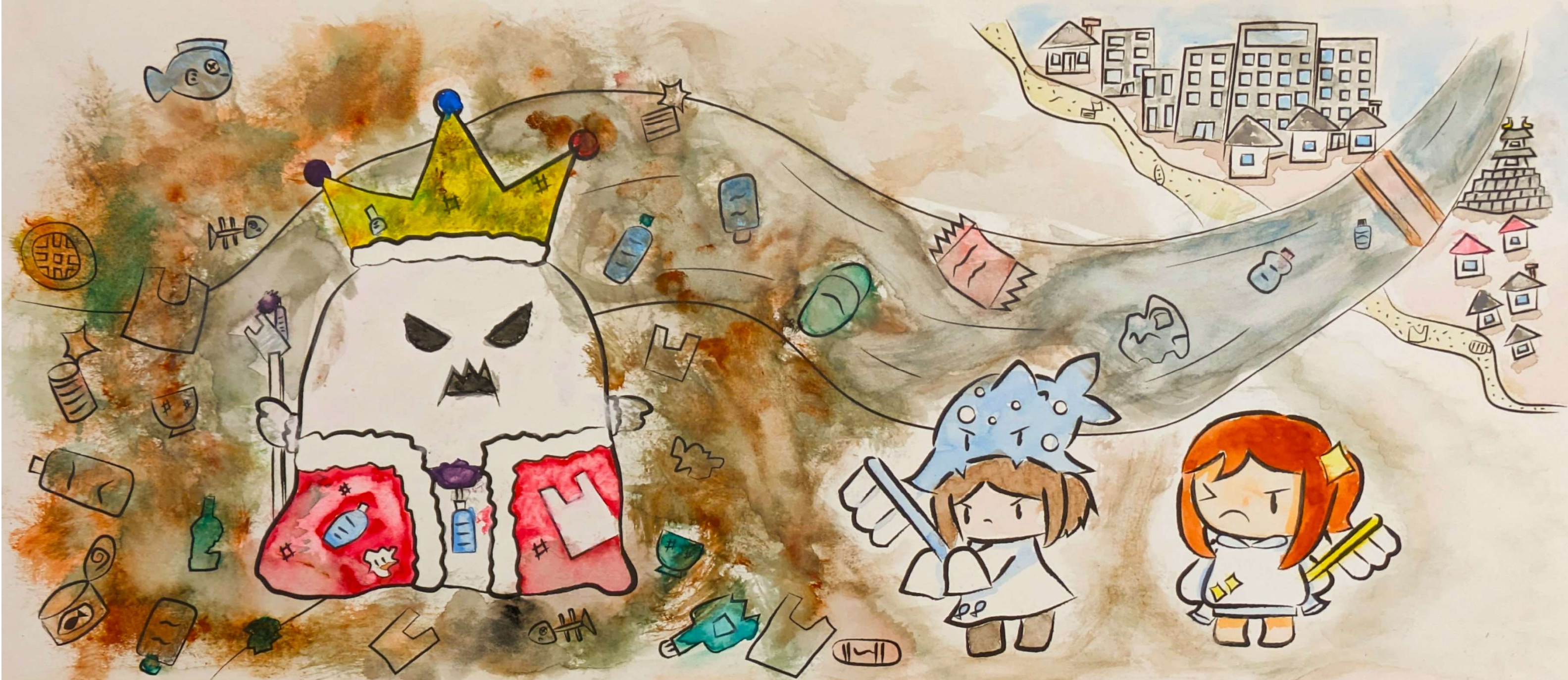


ウミニーのこえをきいて
海のいきものたちがあつまってきました。

みんなでゴミをひろうと、
ゴミニーはキラニーにもどっていきました。

「キラニー！もともどってよかったー！！」

キラニーからゴミ・ゴーニをたおすハブラッキーを
もらったウミニーは、
キラニーたちといっしょに
ゴミ・ゴーニをたおすたびにしゅっぱつしました。



「ぼくちゃんゴミ・ゴーニ！きたないのだーいすき！」
とつぜんウミニーたちのめのまえに、
ゴミ・ゴーニがあらわれました。

「おまえがゴミ・ゴーニか！どうして海にゴミをながすんだよ！」

「海にゴミをながしているのは、ぼくちゃんじゃないよー。
ゴミはかってにどんどんながれてくるんだよー。」

なんと、
ゴミをながしていたのはゴミ・ゴーニではなかったのです。

「それなら、ゴミはどこからながれてきているというんだよ。」

「ゴミは、ニンゲンってやつが
たくさんながしてくれるんだよー。
ゴミいっぱい海、きったなくてさいこうじゃないか！」

「海はきれいなところなんだ。みんなでゴミをひろおう！」

ウミニーたちは、
海をきれいにするために、またゴミひろいをはじめました。

ウミニーたちは、
ちからをあわせてゴミをひろいますが、
ゴミはなかなかへりません。



そのころ、
ウミニーがうまれたがっこうのこどもたちが、
海にあそびにきていました。

「めずらしいいきものにあえるかなー。」
「みて、また海がゴミだらけになってるよ。かなしいね。」
「海のいきものたちのためにゴミひろいをしないとね。」
「そうだね。ゴミひろいしよう！」

こどもたちがゴミをひろってくれたので、
海はもとのきれいなすがたにもどりました。

「うわー！！ゴミが、ゴミがなくなってしまう・・・。」

ウミニーたちとこどもたちのおかげで、
海のなかからゴミがきえていきました。

ゴミのちからがなくなり、
ゴミ・ゴーニは、みるみるちいさくなっていきました。
「や、やめてくれー！！」

「やったー！！ゴミ・ゴーニをたおしたぞー！！」
「海もきれいになったよ。」





きれいになった海のなかで、
ウミニーたちはきょうもたのしくくらしています。

「ゴミがふえたら、ぼくちゃんまたやってくるからねー。」
どこかからゴミ・ゴーニのこえがきこえてきます。

「ゴミだらけにはもうさせないよ。
きれいな海をずっとまもっていくんだから。」

ウミニ-の大冒険

が でまるまで

がっこうのすいそうであまれた「海のようせい」。
いきものたちにおしえてもらったキラキラな海に
いきたくなり、フグのちからで海にとびだす。
たどりついたすなはまで「ゴミ」をしり、
「キラキラな海をとりもどしたい!」とおもって、
ぼうけんにしゅっぱつする。

ウミニ-



海をキラキラにするようせい。
キラニーがいなくなると、海がきたなくなる
といわれている。
ゴミのおうさまゴミ・ゴーニにあやつられ、
ゴミニーになってしまうが、ウミニーたちに
たすけられて、いっしょに海をきれいにする



キラニー

ジンバイザメ



ウミニーがぼうけんを
はじめて、さいしょにであったおともだち。
つよがりなせいかくで、ゆうきがあるフリを
している。
からだがとてもおおきくてやさしいので、
コバンザメやちいさなさかなたちにすかれてい



ゴミ・ ゴーニ

ゴミのおうさま。
ゴミがたくさんあって、きたない海が
だいすき。
ゴミを海にながしてきたなくしていると
おもわれていたが、じつは・・・

サンゴタツ



タツノオトシゴのな
かま。からだ
ちいさい。

フグ



おおきなヒレで、
かいすいをよくとば
す。

ハリセンボン



みずでっぼうがとく
い。おこるとからだの
ハリでこうげきする。

コブヨコバサミ



おおきなヤドカリ。
キラキラな海が
だいすき。

アカウミガメ



海のゴミがふえて
こまっている。

わかとしょうがっこうのきょうしつからは、海がみえます。たいようのひ
かりがはんしゃして、いつもキラキラしています。わたしたち4ねんせい
は、この「海」をテーマにそうごうてきなぐくしゅうのじかんのべんきょうを
しています。

海にいていそあそびをしたり、がっこうのげんかんにすいそう「わか
とすいぞくかん」において、海のいきものをそだてたりしています。わか
とすいぞくかんでは、ちいさなタツノオトシゴ「サンゴタツ」、おおき
なヤドカリ「コブヨコバサミ」、がっこうのちかくの海でつれた「フグ」、
みずでっぼうがとくいな「ハリセンボン」、いそあそびでみつけたち
いさなさかなやカニ、ヒトデなどをそだてました。

みりよくてきな海のいきもの、だいすきな海。でも、かいがんにな
がれつく「ゴミ」はなんとひろってもなくなりません。ゴミひろい
のときにかんじた「とてもきたない!」というきもちと「だいす
きなキラキラした海をまもりたい!」というきもちを、いろ
いろなひとにしてもらうために、この「ウミニーのだいぼうけん」
をつくりました。

ウミニーはすいそうをとびだし、海をキラキラにするためのぼうけん
をはじめます。ですが、ゴミのちからはつよく、ひとりでは海を
きれいにできません。海のいきものたちやキラニーといっしょに、
ゴミのおうさまゴミ・ゴーニにたちむかいますが、それでもち
からがたりず、こまってしまうとき、ニンゲンのこどもたちが
海のゴミをひろい、ウミニーたちのちからとあわさってキラ
キラな海をとりもどすことができます。

海のゴミは、ニンゲンたちがだしたものです。ウミニーたちに
たよるのではなく、わたしたちも、だいすきなキラキラした海を
まもるために、これからもかつどうをつづけていきたいです。

令和6年度 若戸小学校4年生